

## 本院患者さんへの情報公開文書

### 「難治性婦人科癌における癌幹細胞の関与と癌免疫療法への応用： 基礎的かつ臨床的研究」 についてのご説明

#### ● はじめに

がんは世界中で最も死亡率の高い疾患の1つですが、がんの悪性度や特性をあらわすマーカーの開発とそれに対応した治療法の開発が急務の課題です。

一般に、がん組織にはリンパ球の浸潤が観察されますが、これまでの研究によって、細胞障害性 T リンパ球 (CTL) の浸潤が多い腫瘍は、少ない腫瘍と比較して予後良好であることが多いと報告されています。また、CTL が認識する抗原分子の発現が低下している腫瘍は、発現が高い腫瘍と比較して予後が不良であるとの報告もあります。したがって、がん組織における抗原分子の発現レベルや CTL の浸潤程度を分析することは、がん患者さんの予後やがんの悪性度をあらわす指標となる可能性があります。また、CTL に発現している遺伝子や血清中に含まれる自己抗体価やサイトカインレベルも、患者さんの免疫応答を反映する指標となる可能性があります。

本研究は、がん組織内に浸潤しているリンパ球および各種の抗原発現レベルを解析、また血液細胞に発現している遺伝子や血清中の自己抗体等を解析し、患者さんの診療情報と照らし合わせて、より精度の高いがんの悪性度とがんに対する免疫応答をあらわす指標としての価値を評価することを目的としています。

#### ● 研究対象

1990年4月1日から2016年8月31日までの間に札幌医大病院または共同研究機関病院において切除手術を受けた婦人科癌患者さんのうち、腫瘍組織または血液検体を採取・保存された300例を対象とします。

- 研究内容

上記対象患者さんのがん病理組織標本を用いて免疫染色を実施し、腫瘍組織に発現している遺伝子やタンパク質を解析します。解析データと患者さんの診療情報とを照らし合わせて、その相関性について分析します。また、凍結保存された血液サンプルを用いて、自己抗体やサイトカインの解析、細胞の遺伝子発現解析を実施し、その相関性について分析します。

- 患者さんの個人情報の管理について

本研究では個人情報の漏洩を防ぐために、個人を特定できる情報を削除し、データの数値化、暗号化、識別コードへの置き換えを行なうなどの厳重な対策をとります。共同研究機関にデータを転送する際には、個人を特定できる情報を含まないように厳重に管理します。本研究の目的以外には患者さんの診療データは使用しません。

- 患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の措置について

1990年4月1日から2016年8月31日までの間に本院でがん手術または採血を受けられた方の中で、この研究に診療データを提供したくない方は、下記までご連絡ください。

- 研究期間

病院長承認日からH34年3月31日まで。

- 医学上の貢献

研究成果はがん患者さんの診断と新しい治療法発見の一助になり、患者さんの健康維持に貢献できます。

- 問い合わせ先

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

札幌医科大学医学部病理学第一講座

本院研究担当者 廣橋 良彦

TEL: 011-611-2111 (内線 26910)、011-643-2310 (直通)